

FINANCIAL RESULTS

2026年3月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社ファブリカホールディングス

証券コード：4193



会社名	株式会社ファブリカホールディングス Fabrica Holdings Co., Ltd.
本社所在地	東京都港区赤坂1丁目11-30 赤坂1丁目センタービル9F
代表者	谷口 政人
設立	1994年11月
従業員数	215名 (2025年6月末時点、連結、就業人員)

事業内容	SMS配信ソリューション事業 自動車販売業務支援システム開発・販売事業 インターネットメディア事業 WEBマーケティング支援事業 ブロックチェーンおよびAI関連事業 自動車修理・レンタカー事業
------	---

連結子会社	株式会社メディア4u 株式会社ファブリカコミュニケーションズ Sparkle AI株式会社 オートレックス株式会社
-------	--

ミッション

デジタルの力で新たな価値を創造し、あらゆる組織と人々に貢献する

01. 【連結】 2026年3月期 第1 四半期実績
02. 【連結】 セグメント別実績・KPI推移
03. ビジネスアップデート

【連結】2026年3月期 第1四半期実績

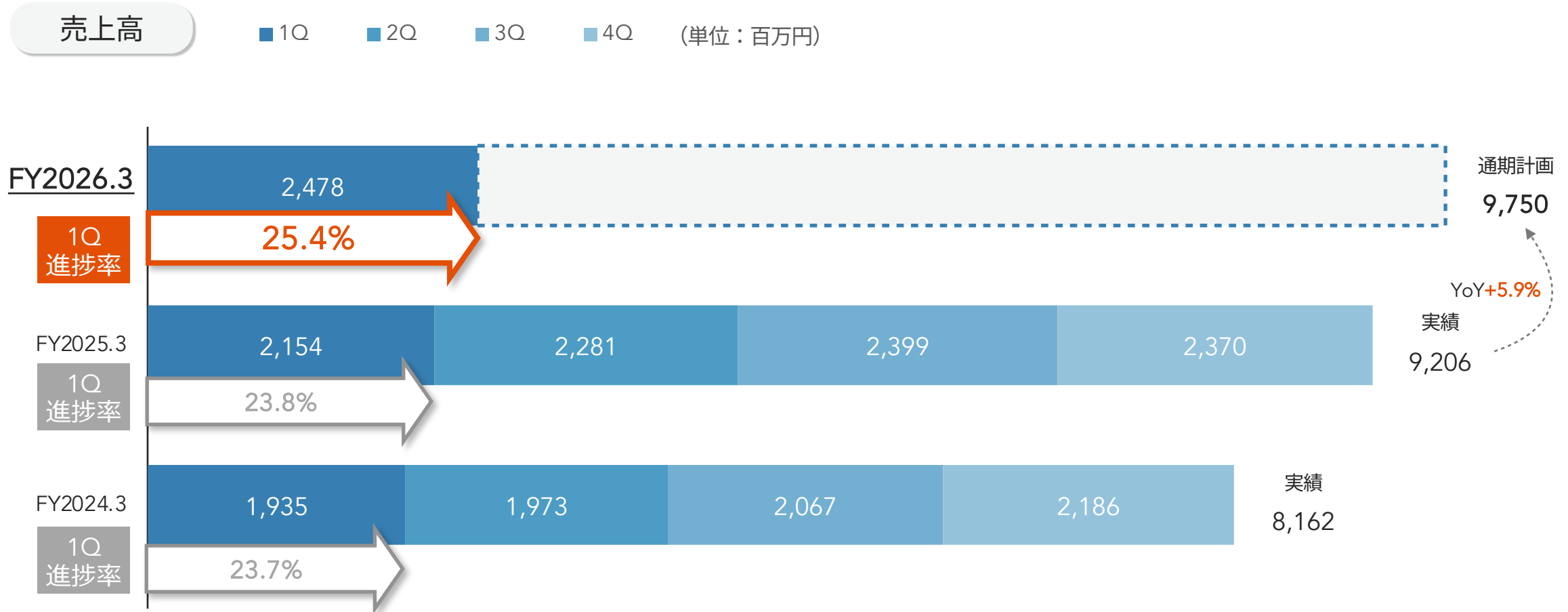
ビジネスコミュニケーション事業がグループ業績を牽引し、計画を上回る進捗

	FY2025.3	FY2026.3			
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期計画	進捗率
(単位：百万円)					
売上高	2,154	2,478	+15.0%	9,750	25.4%
EBITDA ※	298	338	+13.4%	-	-
営業利益	268	290	+8.3%	1,000	29.1%
経常利益	270	290	+7.5%	990	29.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	170	190	+11.5%	580	32.9%

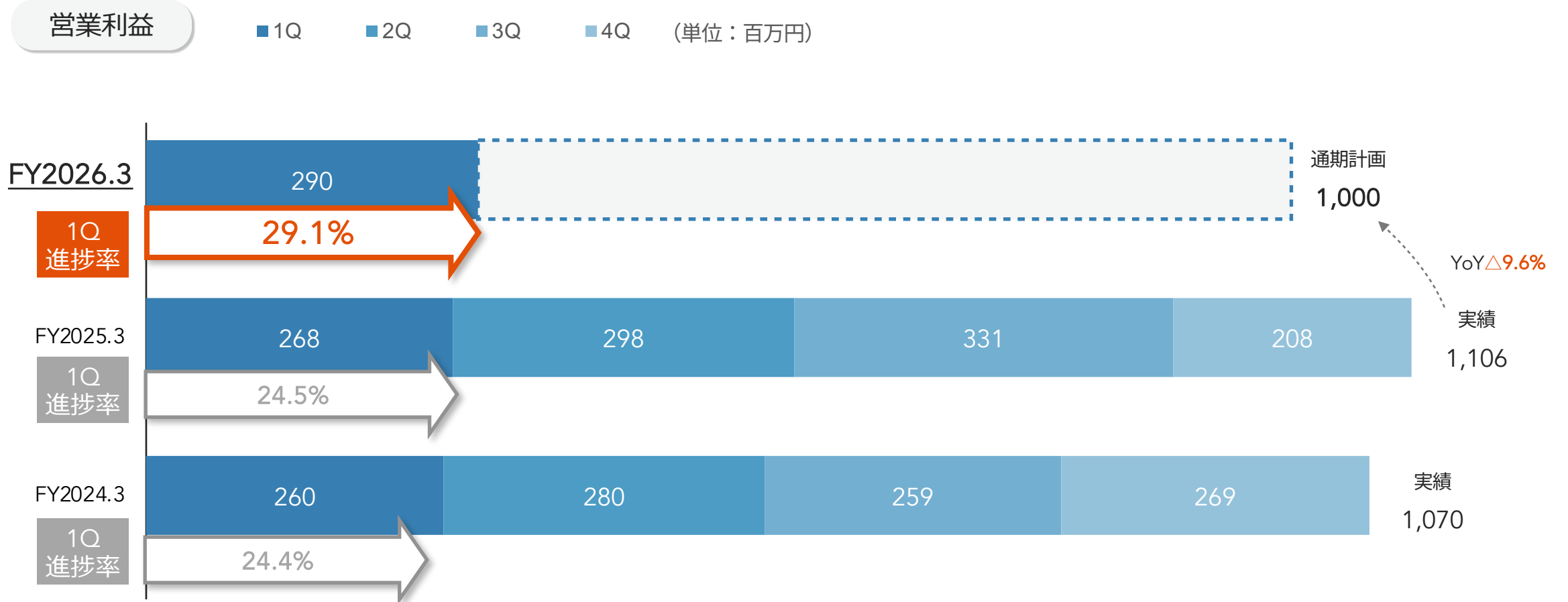
※ EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

	FY2025.3	FY2026.3			
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期計画	進捗率
(単位：百万円)					
売上高	2,154	2,478	+15.0%	9,750	25.4%
ビジネスコミュニケーション事業	1,348	1,569	+16.4%	6,150	25.5%
オートモーティブプラットフォーム事業	404	418	+3.4%	1,820	23.0%
AI事業	0.9	1.6	+80.0%	5	33.0%
オートサービス事業	400	489	+22.2%	1,775	27.6%
セグメント利益または損失(△)	268	290	+8.3%	1,000	29.1%
ビジネスコミュニケーション事業	359	453	+26.1%	1,555	29.2%
オートモーティブプラットフォーム事業	103	79	△23.5%	300	26.5%
AI事業	△14	△18	-	△130	14.5%
オートサービス事業	14	4	△67.0%	85	5.7%
調整額	△195	△228	-	△810	-

通期計画に対する売上高の進捗は25.4%と、過去実績を上回る進捗



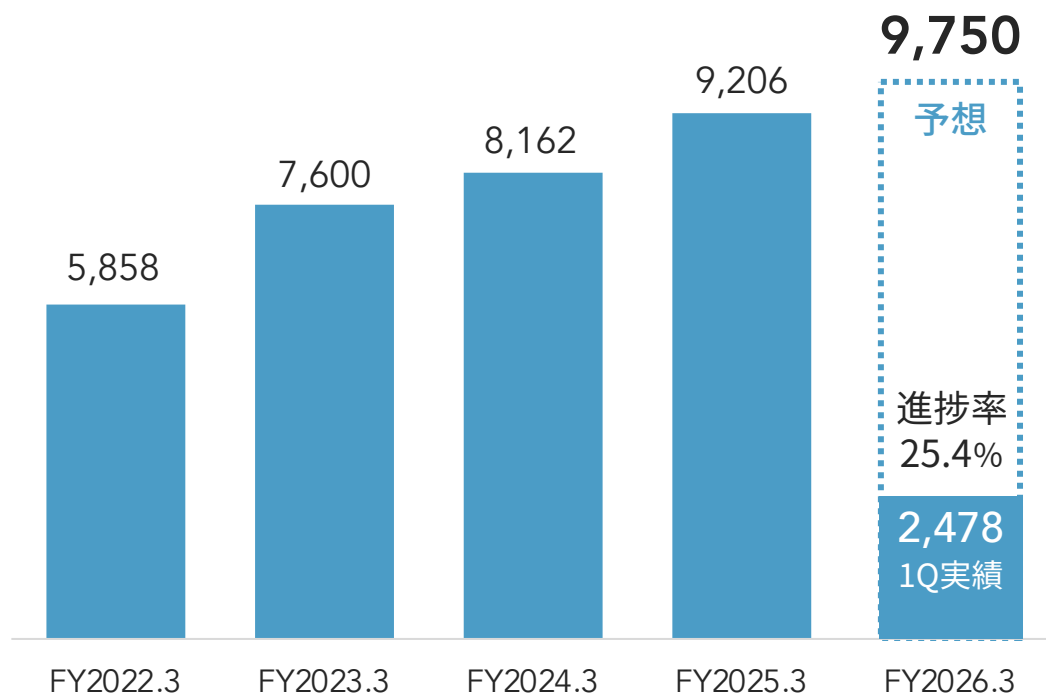
通期計画に対する営業利益の進捗率は29.1%と、過去実績を大きく上回る進捗



通期業績予想は、安定的な事業成長と積極的な成長投資を見込み策定

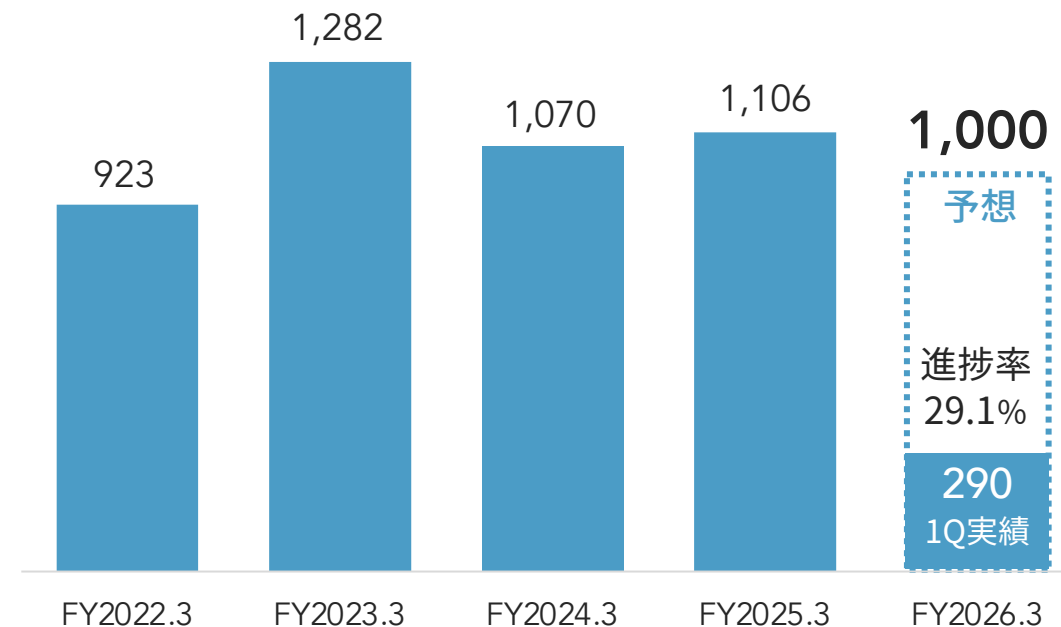
売上高 推移

■ 売上高（単位：百万円）

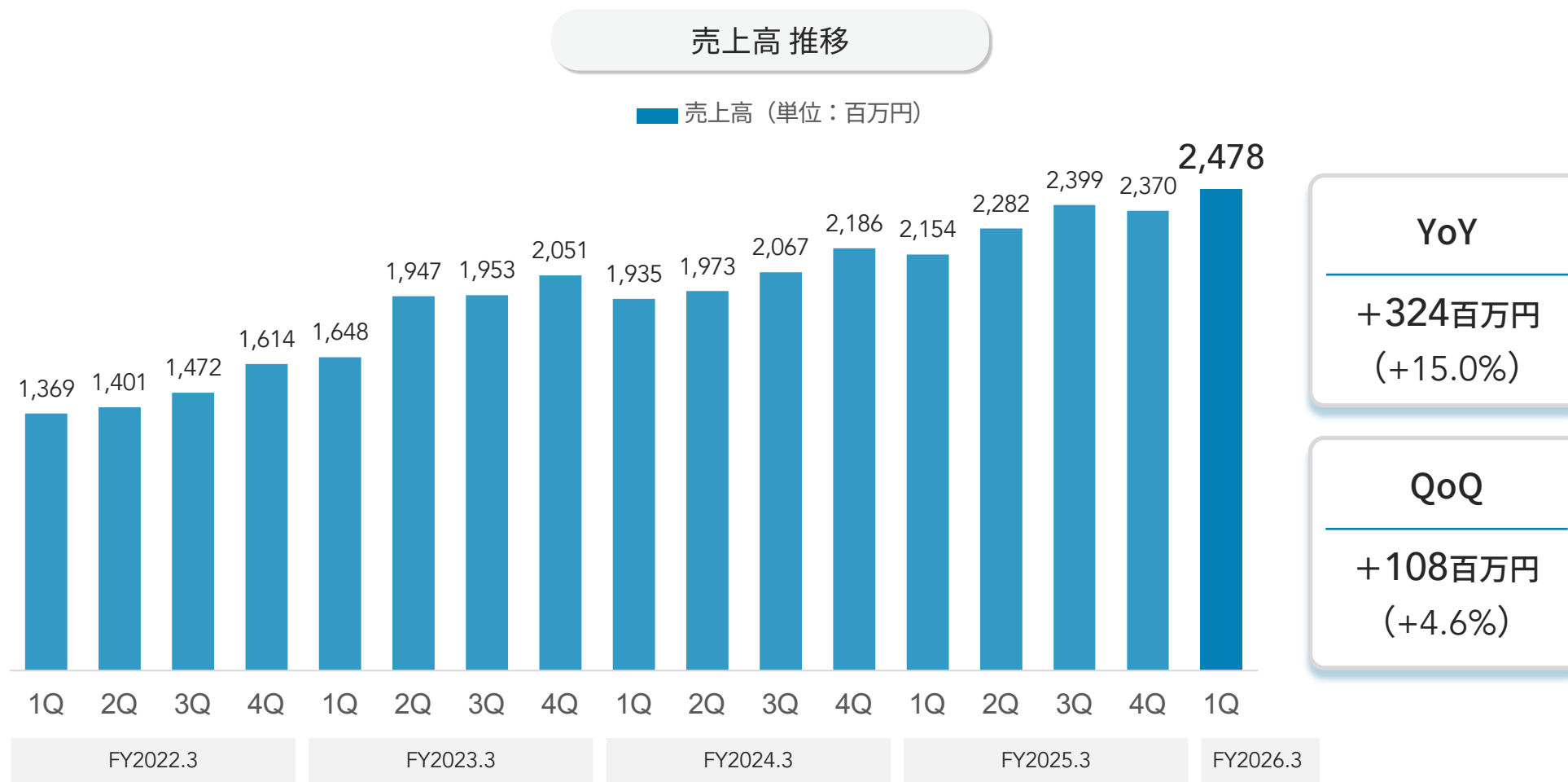


営業利益 推移

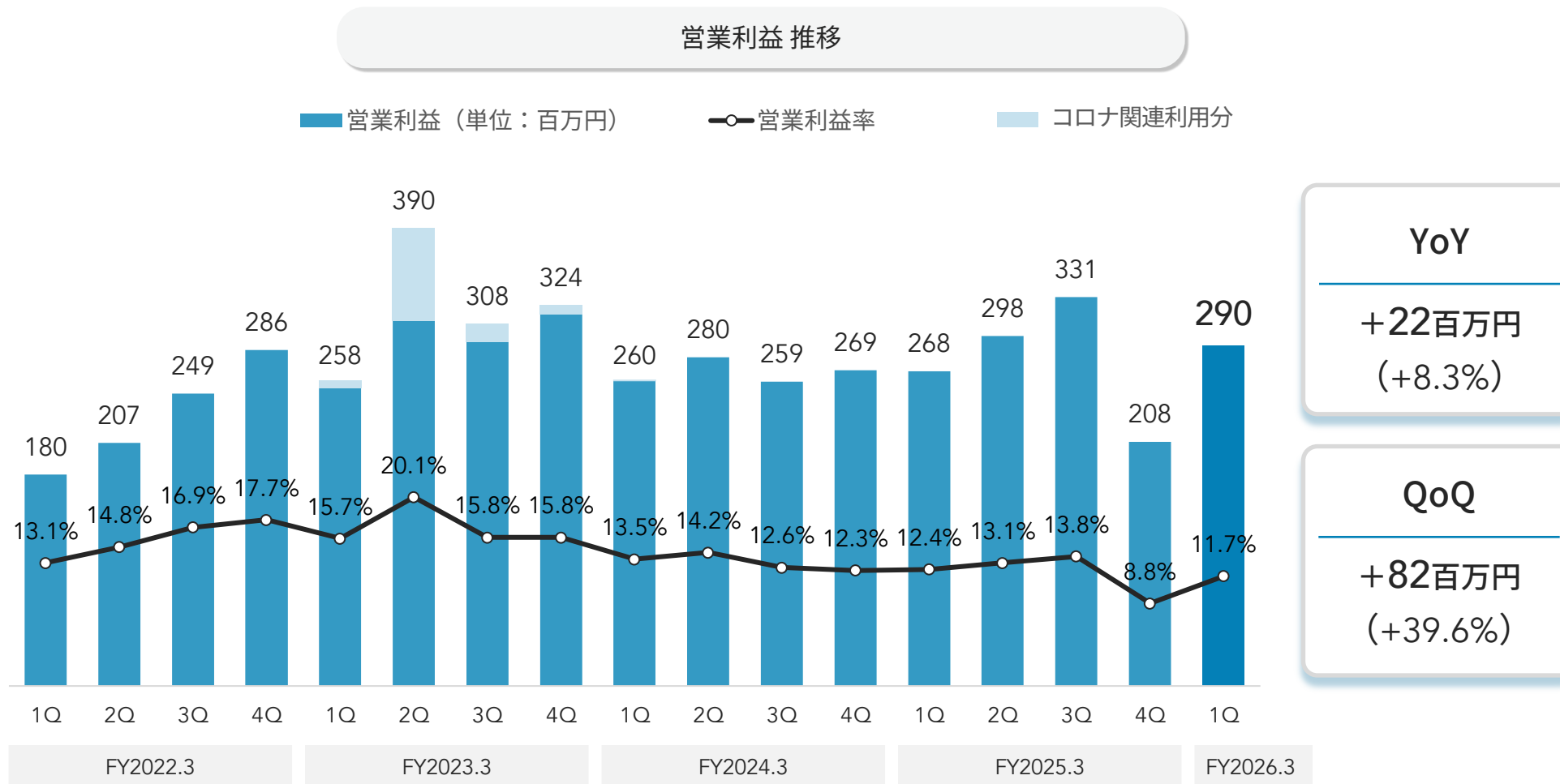
■ 営業利益（単位：百万円）



四半期売上高はYoY二桁成長で過去最高を更新



株主優待および貸倒引当金により、前四半期に一時的に減少した営業利益率が回復



オートレックス株式会社の株式の取得により現預金が減少し、のれんが増加

(単位：百万円)	2025年3月期 期末		2026年3月期 第1四半期末	
	2025年3月期 期末	2026年3月期 第1四半期末	2025年3月期 期末	2026年3月期 第1四半期末
流動資産	3,765	3,426	流動負債	1,477
うち現預金	2,621	2,254	うち短期借入金	54
固定資産	1,614	1,707	固定負債	237
有形固定資産	627	677	長期借入金	85
無形固定資産	351	592	負債合計	1,715
うちソフトウェア	296	287	株主資本	3,633
うちのれん	13	242	うち自己株式	△186
投資等	634	437	純資産合計	3,663
資産合計	5,379	5,134	負債・純資産合計	5,379

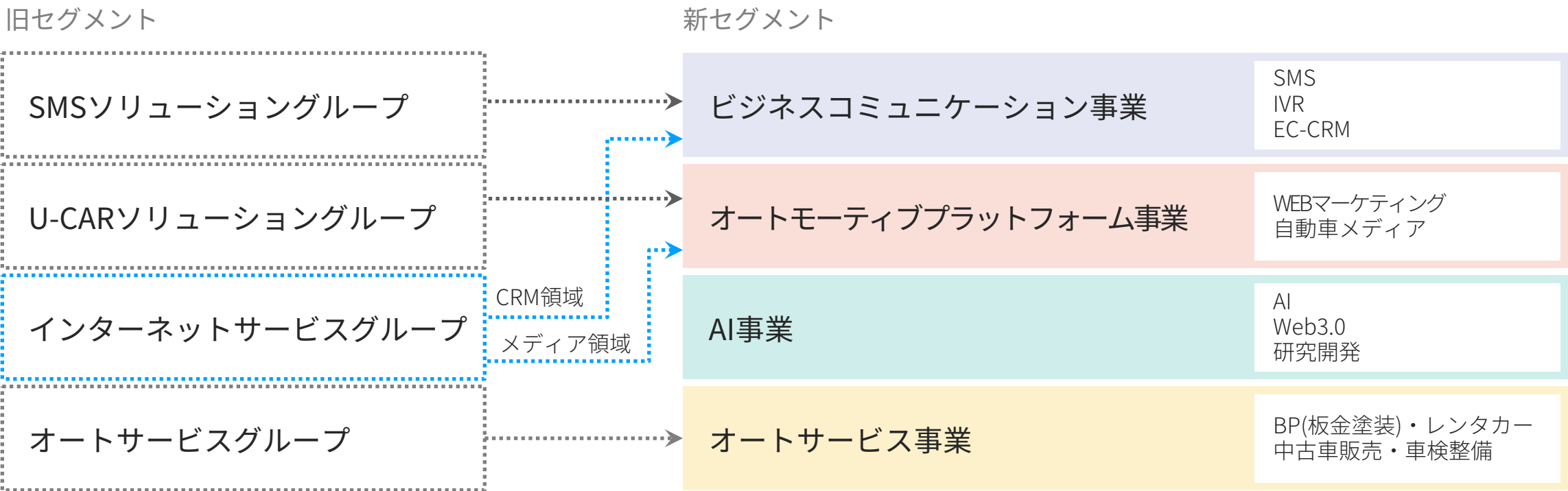
【連結】セグメント別実績・KPI推移

事業領域ごとの成長戦略をより明確にするため、セグメント区分の見直しを実施

1. 従来の「インターネットサービス」セグメントを廃止し、事業特性に応じて以下に再編成
- ◆ CRMサービス領域

→ ビジネスコミュニケーション事業へ統合
- ◆ 自社開発自動車メディア領域

→ オートモーティブプラットフォーム事業へ統合
2. 新たに「AI事業」を独立した事業としてセグメント化



ビジネスコミュニケーション事業

売上構成比：63.4%、営業利益率：28.9%



SMS

法人向けSMS配信サービス「メディアSMS」、AIを活用したIVRサービス「TeleForce」など、コミュニケーションプラットフォームを提供

EC特化型CRM

EC事業に特化したCRMシステム「アクションリンク」を提供

AI事業

売上構成比：0.1%



AI、ブロックチェーン、Web3.0といった最先端技術を活用し、当社の既存サービスの価値向上と、次世代を担う新規事業の創出を推進

オートモーティブプラットフォーム事業

売上構成比：16.8%、営業利益率：19.0%



カーソリューション

自動車販売業務支援システム「symphony」、クラウド車検整備請求システム「Quicar」をはじめ、自動車アフターマーケット事業者の業務効率化と成長を支援する多彩なソリューションを提供

WEBマーケティング・自動車メディア

自社メディア「CARPRIME」を通じて、クルマの魅力や売買に関する信頼性の高い情報を発信

オートサービス事業

売上構成比：19.8%、営業利益率：1.0%



BP（钣金塗装）・レンタカー

損害保険会社や保険代理店からの依頼を受け、事故で損害を受けた自動車の修理と修理期間中のレンタカーの貸出等をワンストップで提供

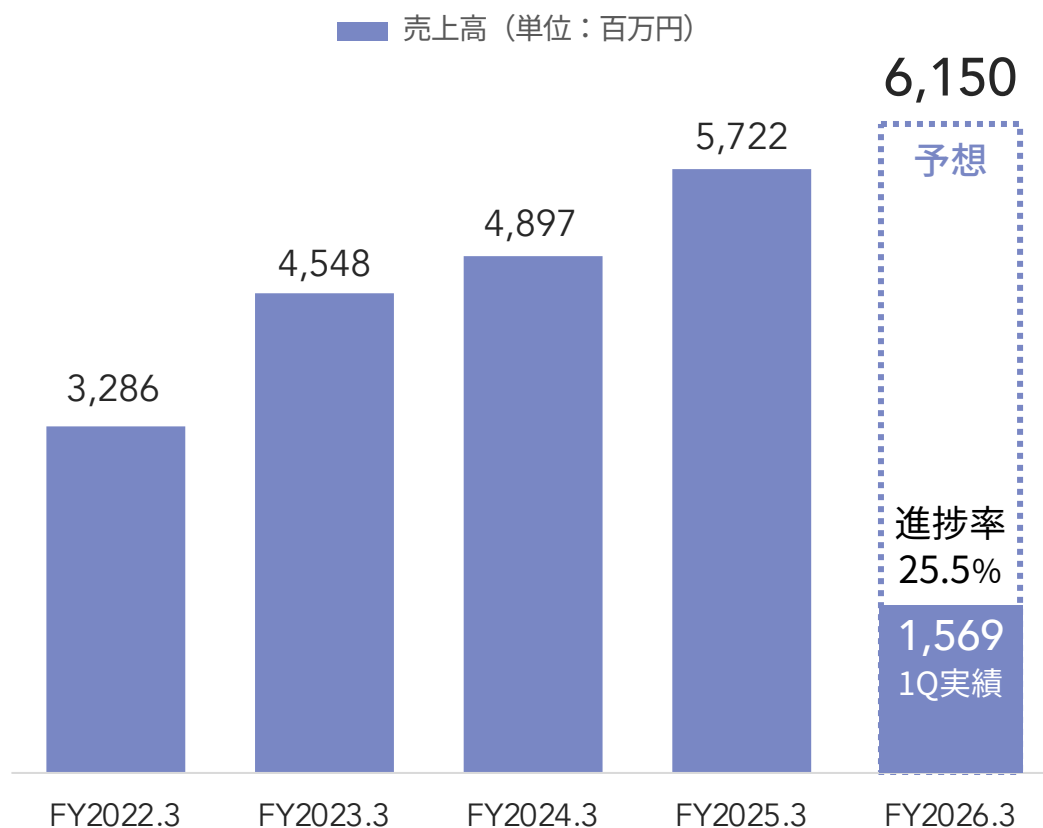
中古車販売・車検整備

中古車販売・車検整備を行うパイロットショップとして「中部車検センター」を運営

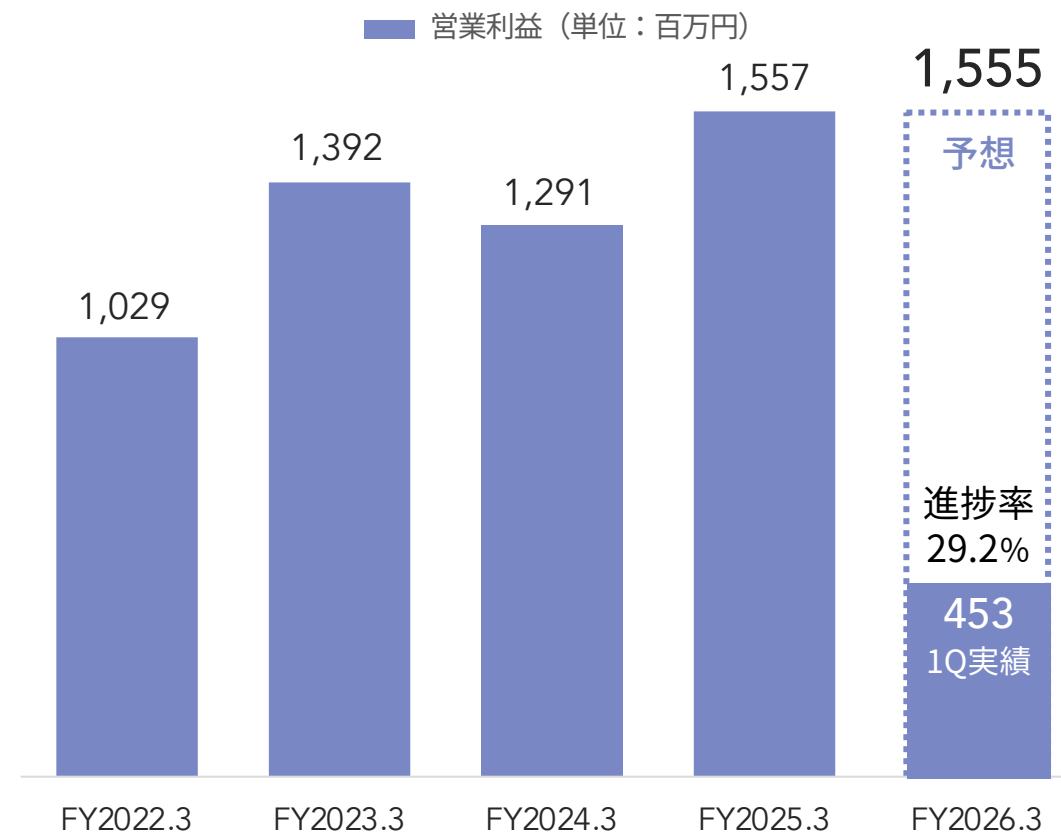
※ 売上構成比・営業利益率：2026年3月期第1四半期時点の数字

第1四半期の売上高および営業利益は、計画を上回って進捗

セグメント売上高 推移

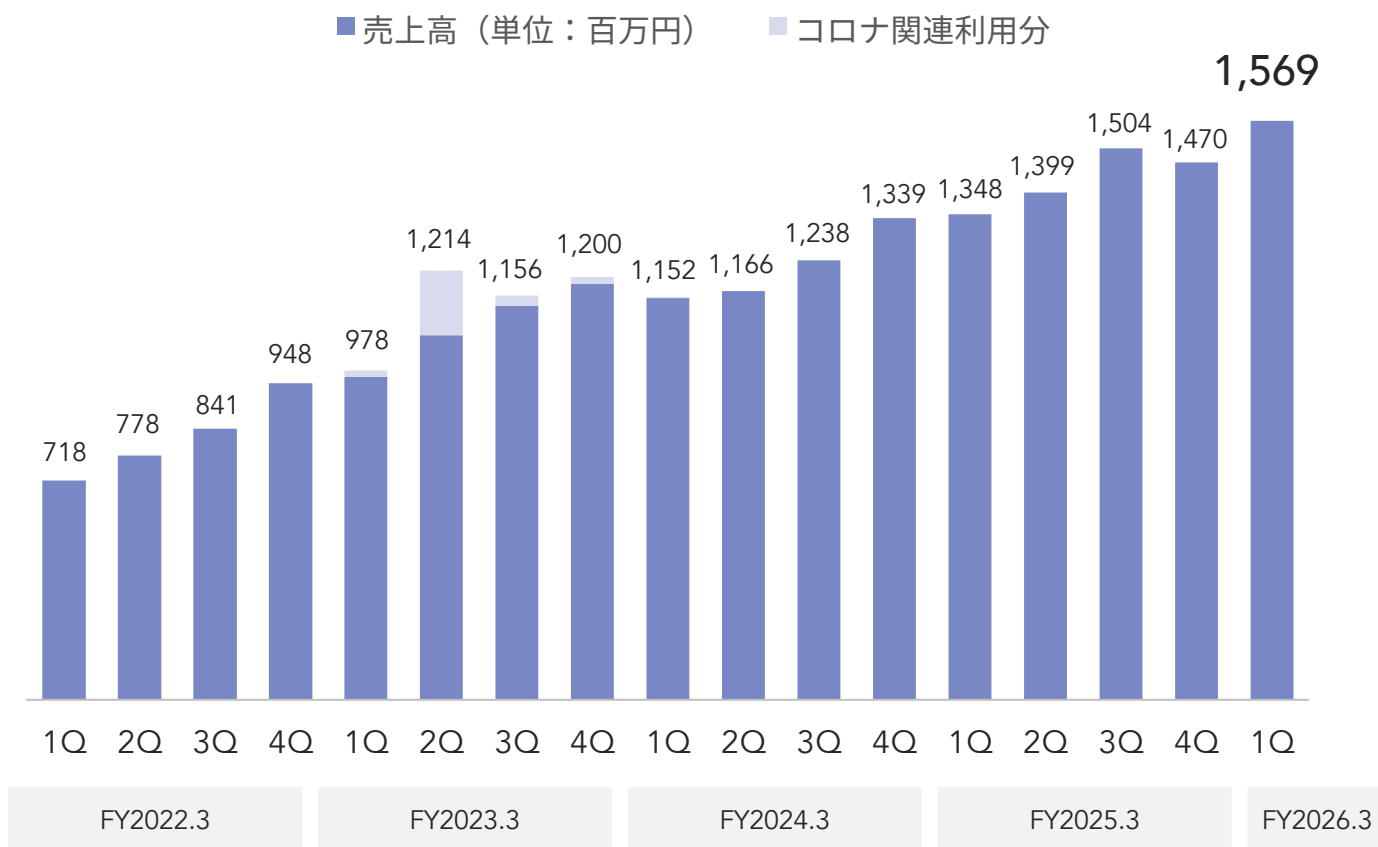


セグメント営業利益 推移



金融機関の不正アクセス対策需要を捉え、売上高は過去最高を更新 YoYも16.4%増と高成長を継続

セグメント売上高 推移



YoY

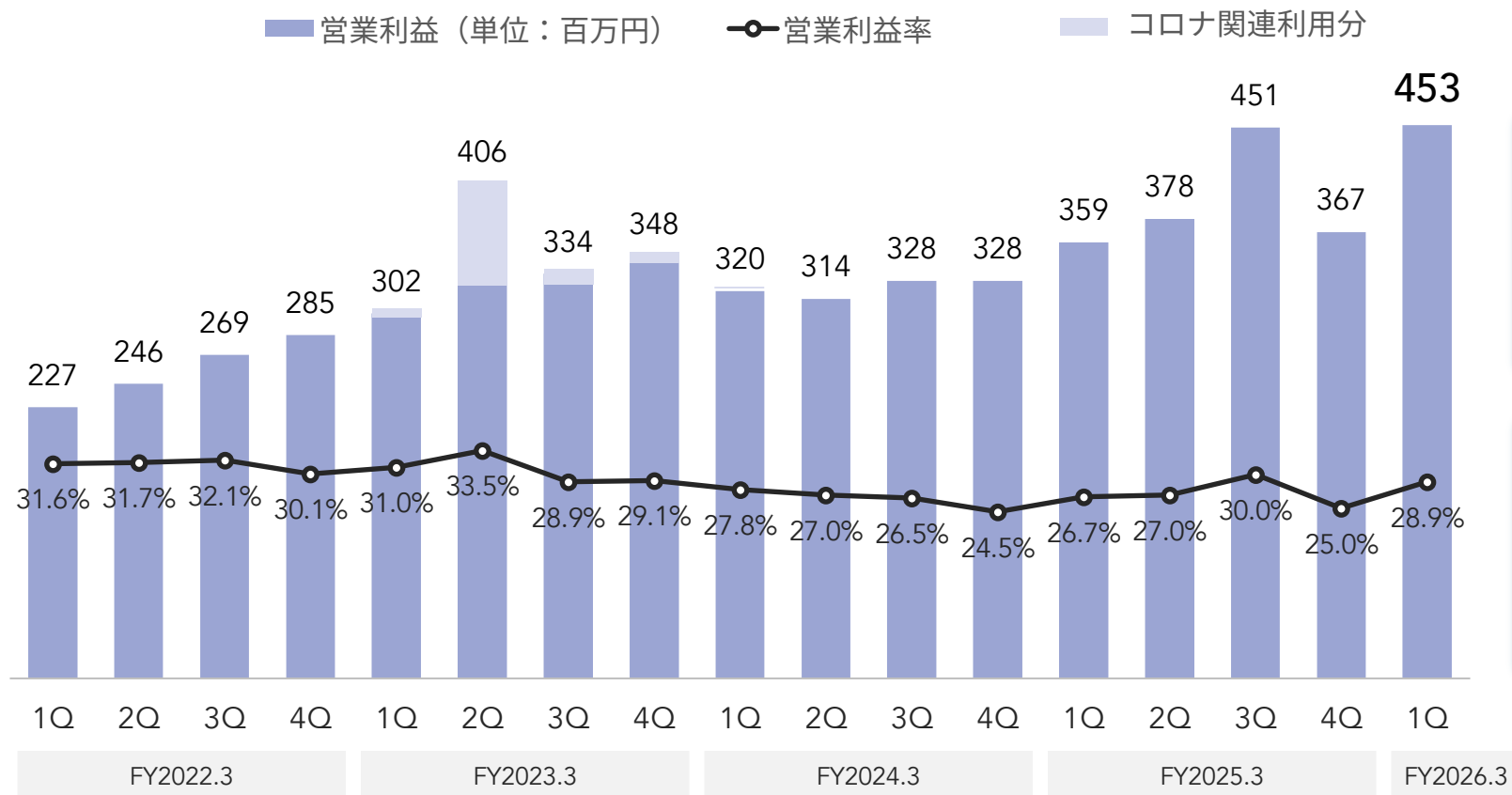
+221百万円
(+16.4%)

QoQ

+99百万円
(+6.7%)

営業利益は過去最高を更新、営業利益率も改善し高利益率を維持

セグメント営業利益・営業利益率推移



YoY

+93百万円
(+26.1%)

QoQ

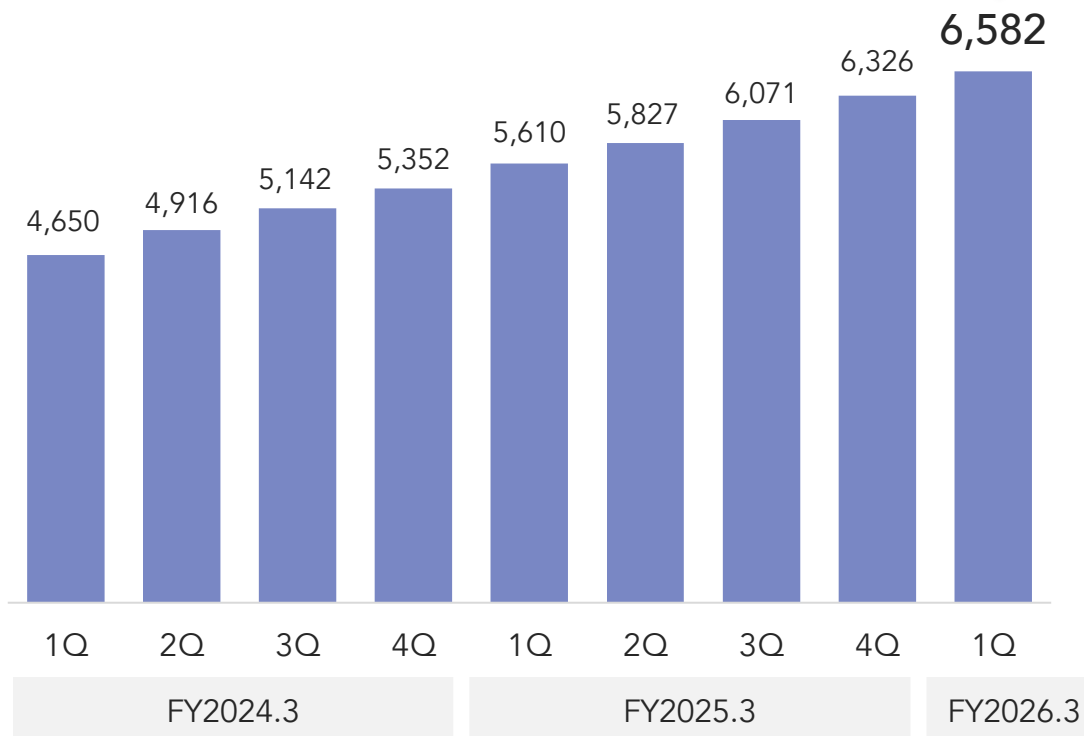
+86百万円
(+23.5%)

累計契約社数は順調に拡大。広告宣伝費も規律のある投資を継続

SMS関連サービス累計契約社数 推移

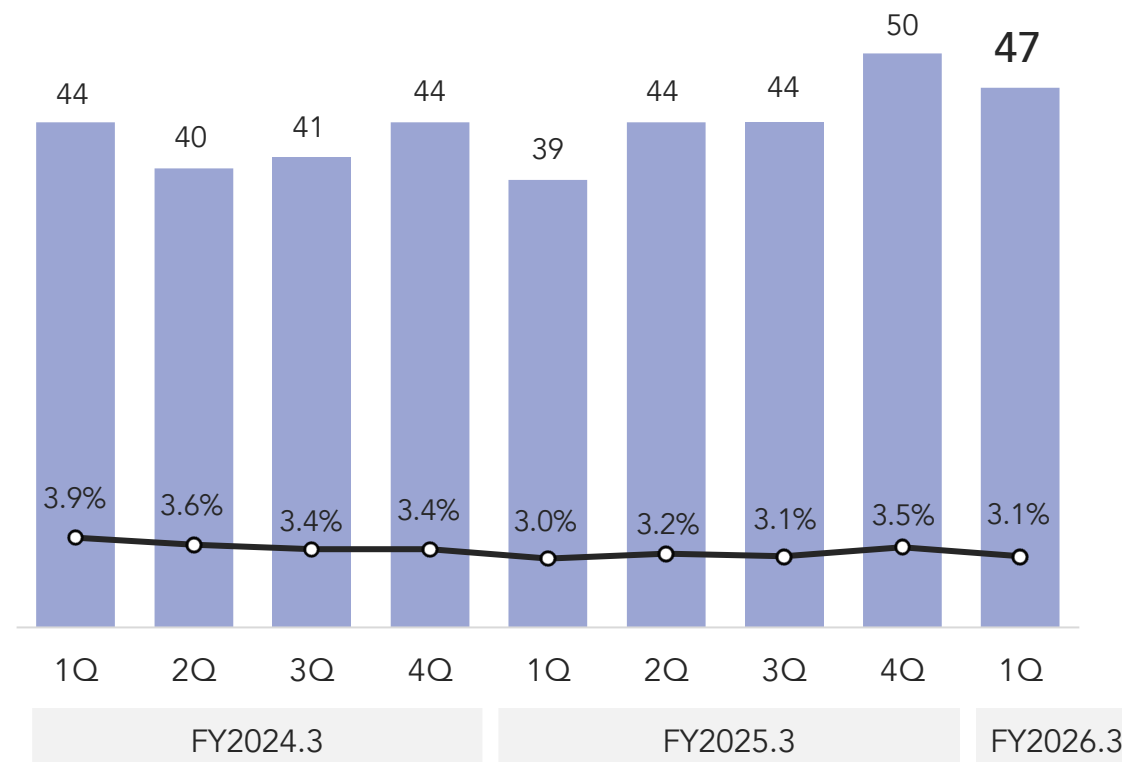
■ SMS関連サービス累計契約社数（単位：社）

前年同期比 **+972社**
前四半期比 **+256社**



広告宣伝費・売上高広告宣伝費比率 推移（連結仕訳前）

■ 広告宣伝費（単位：百万円） ● 売上高広告宣伝費比率



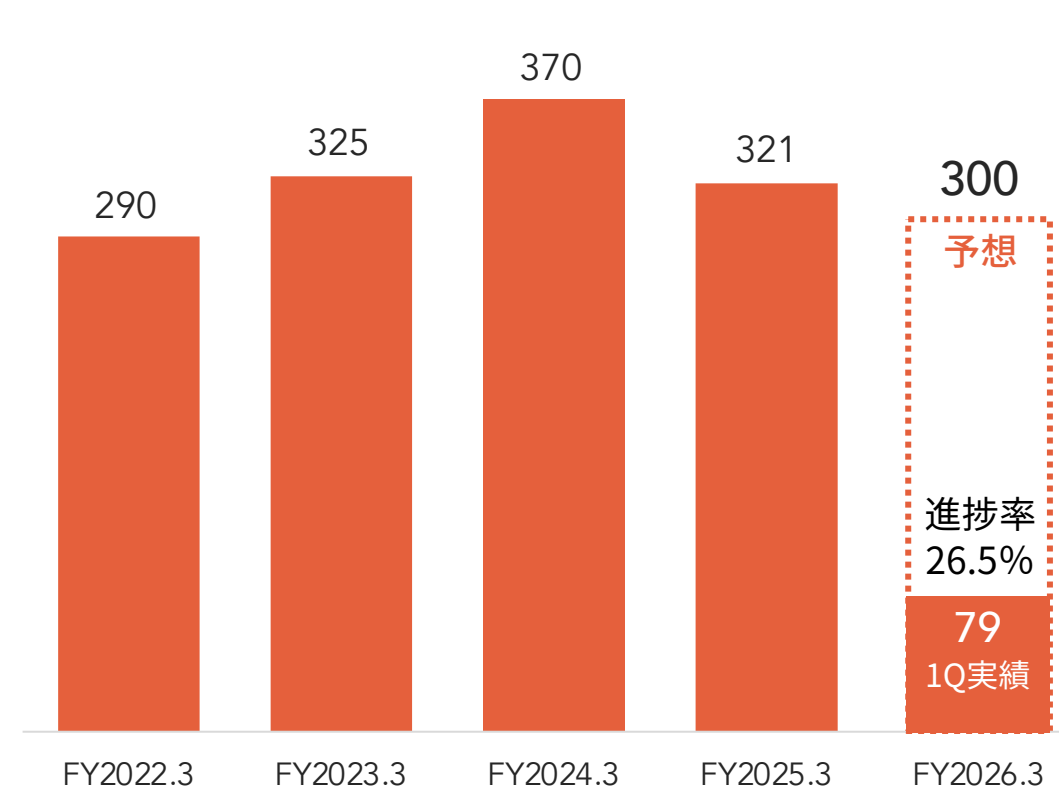
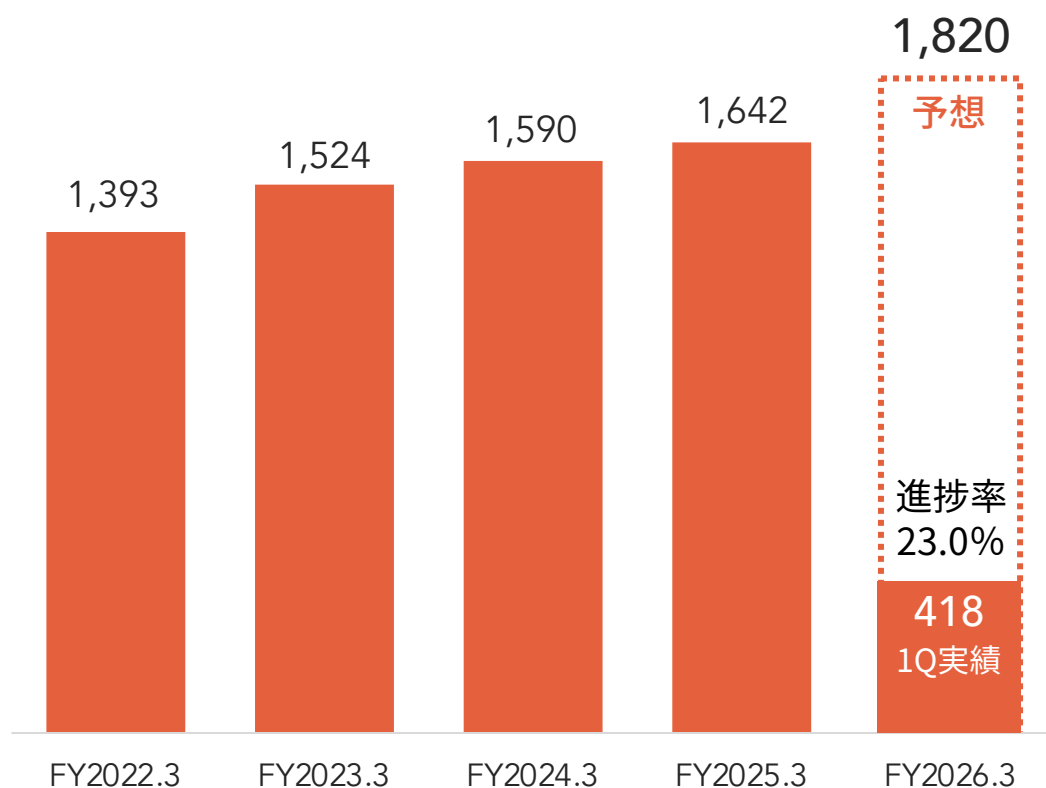
売上高は想定より若干下振れしたが、第2四半期以降の施策改善により通期計画どおりの着地を目指す

セグメント売上高 推移

セグメント営業利益 推移

売上高（単位：百万円）

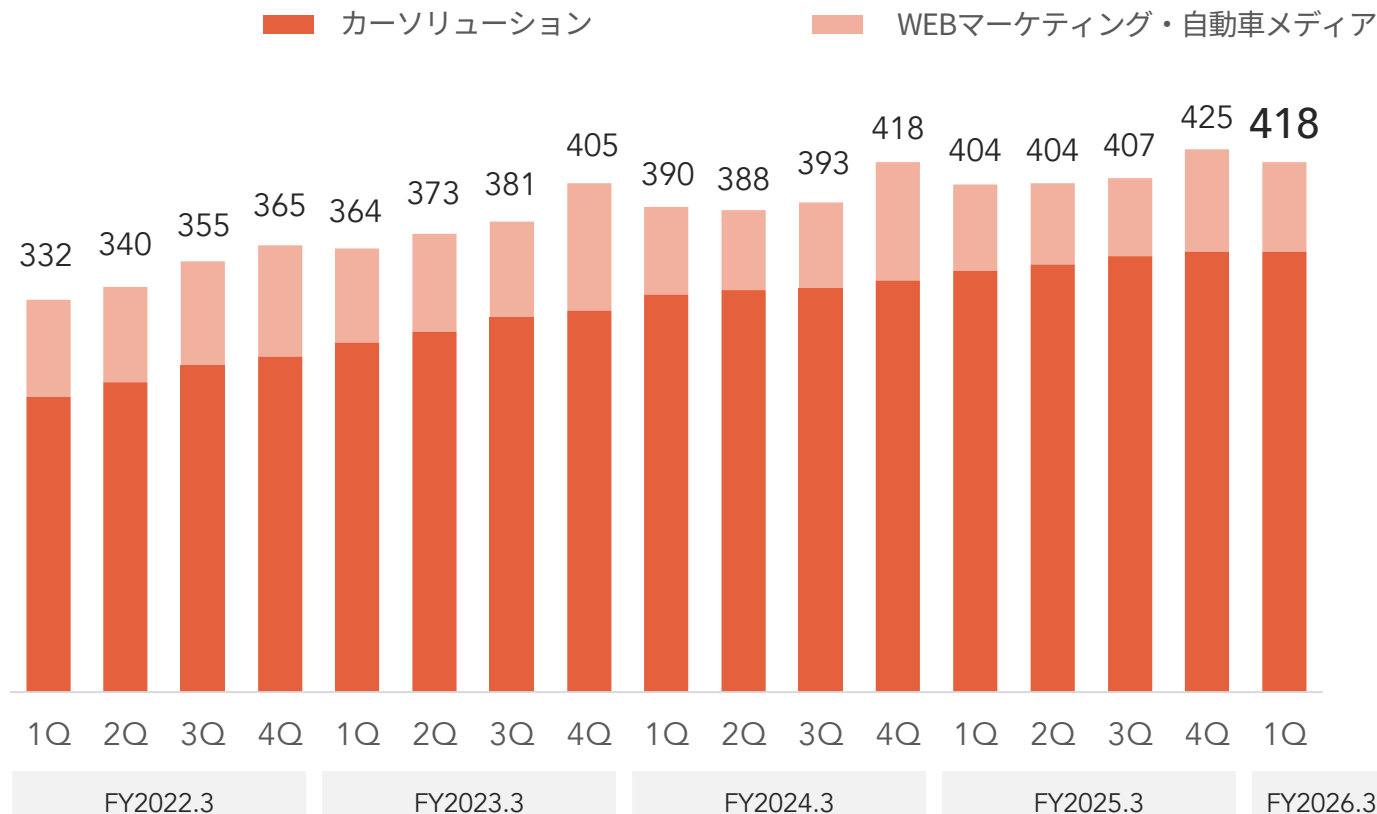
営業利益（単位：百万円）



前四半期比でWEBマーケティング・自動車メディアの売上高は減少、 カーソリューションの売上高は微増

セグメント売上高 推移

（単位：百万円）



YoY

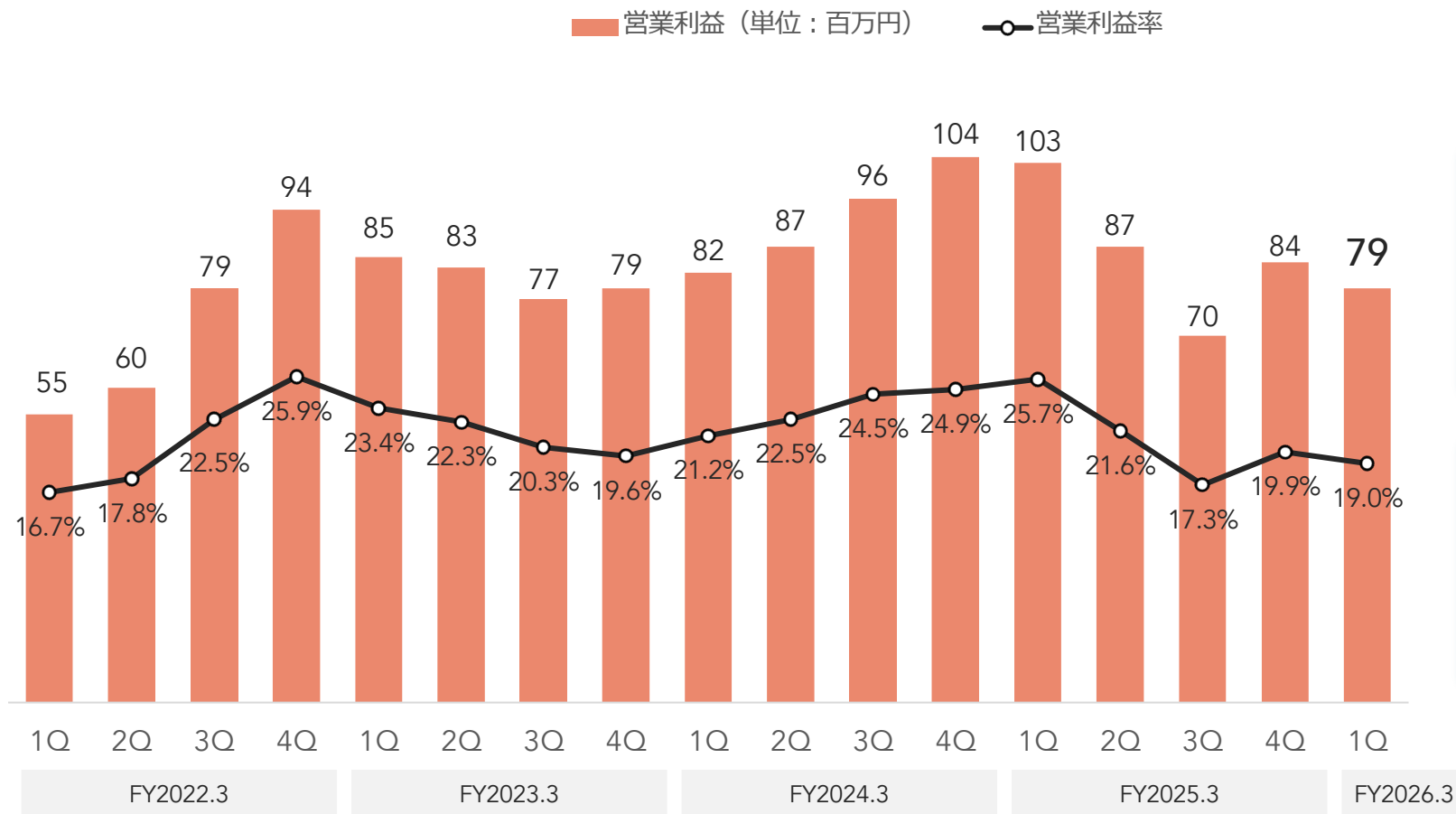
+14百万円
(+3.4%)

QoQ

△7百万円
(△1.7%)

将来成長に向けた投資継続により減益するも、想定通りに推移

セグメント営業利益・営業利益率推移



YoY

△24百万円
(△23.5%)

QoQ

△5百万円
(△6.1%)

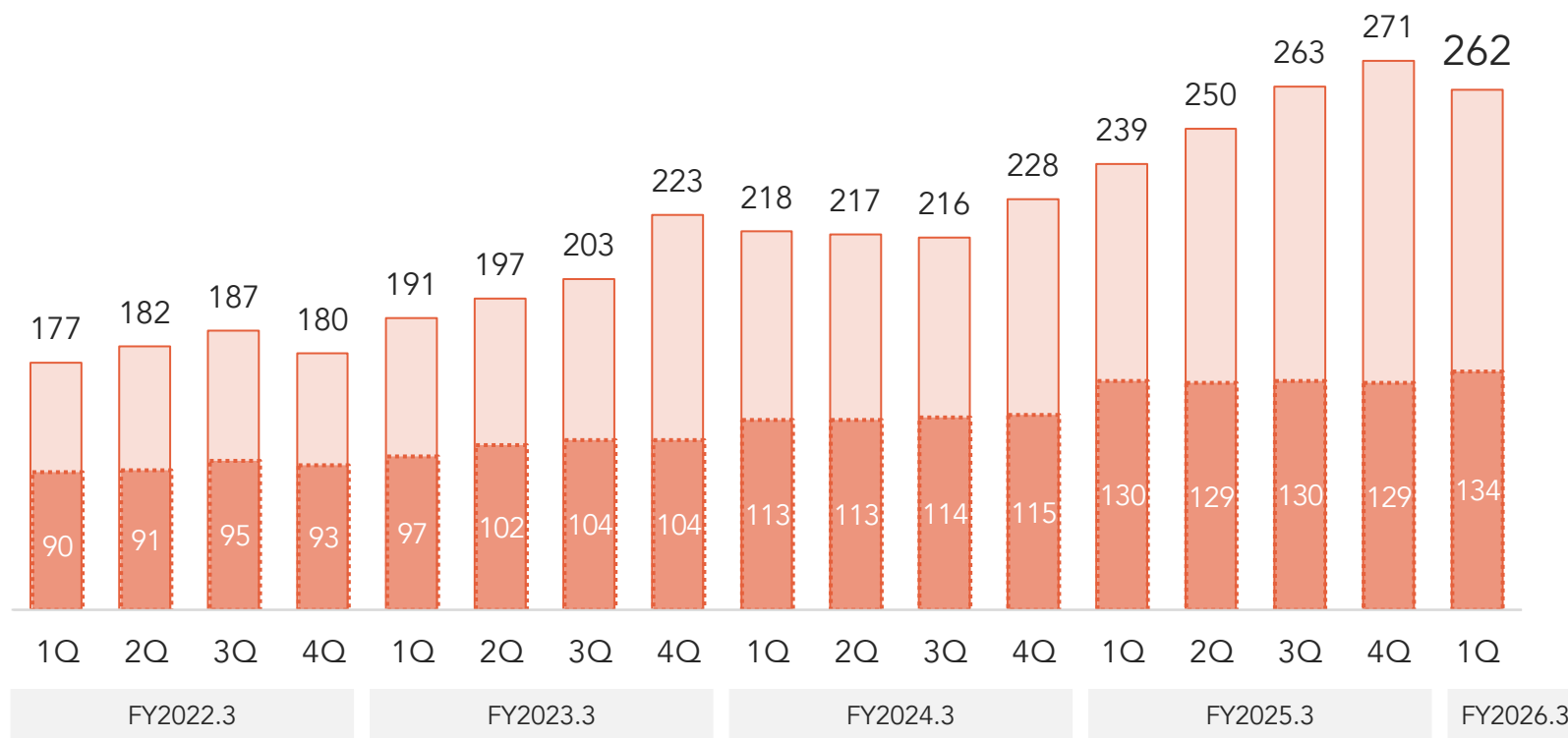
プロダクト開発および人材への成長投資を継続中

販管費および人件費 推移

■ 販売費及び一般管理費

■ うち人件費

（単位：百万円）

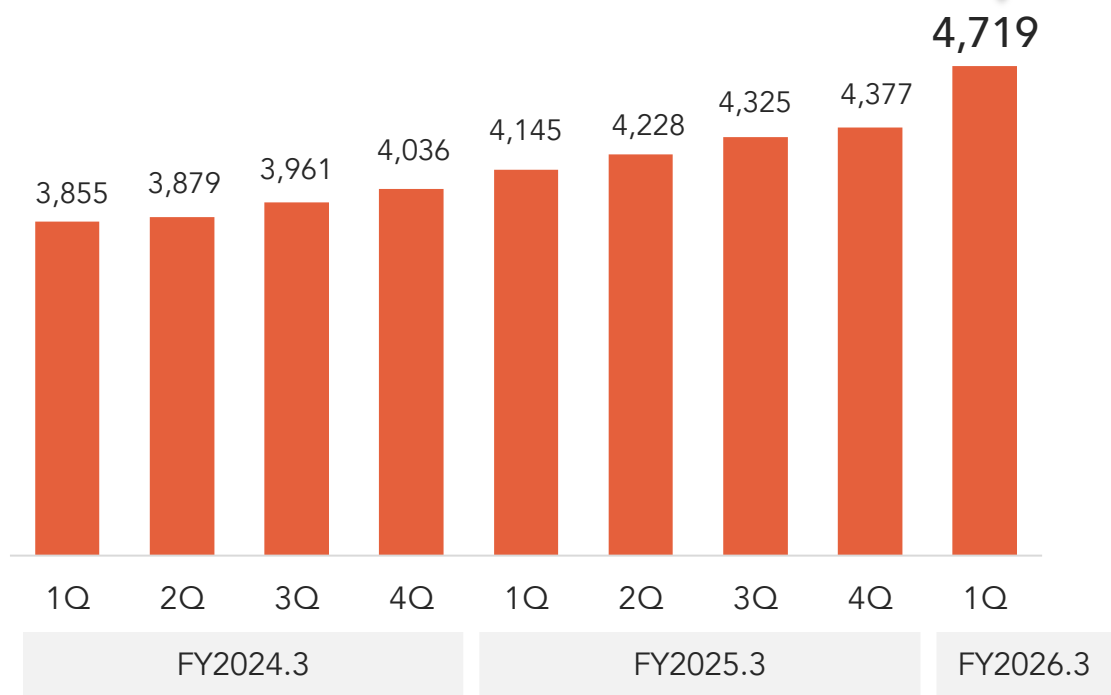


サービスアカウント数は順調に増加、レベニューチャーンレートも低位継続

カーソリューションサービス 有料アカウント数 推移

■ カーソリューションサービス 有料アカウント数
(単位：件)

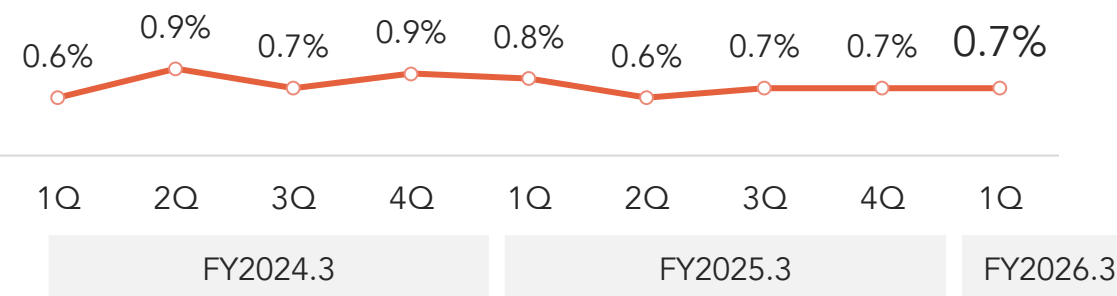
前年同期比 **+574件**
前四半期比 **+342件**
内トラックバンク**308件**



レベニューチャーンレート*

* 算出方法：当月の解約月額利用料 / 先月末時点での月額利用料総額

○ レベニューチャーンレート



※ オートレックス社（トラックバンク）のPL連結は2Qから

計画通りに音声AIエージェントのプロダクト開発を進め、
音声AIエージェントと電話を接続するインフラ「onBridge」を7月末に技術者向けへリリース

セグメント売上高 推移

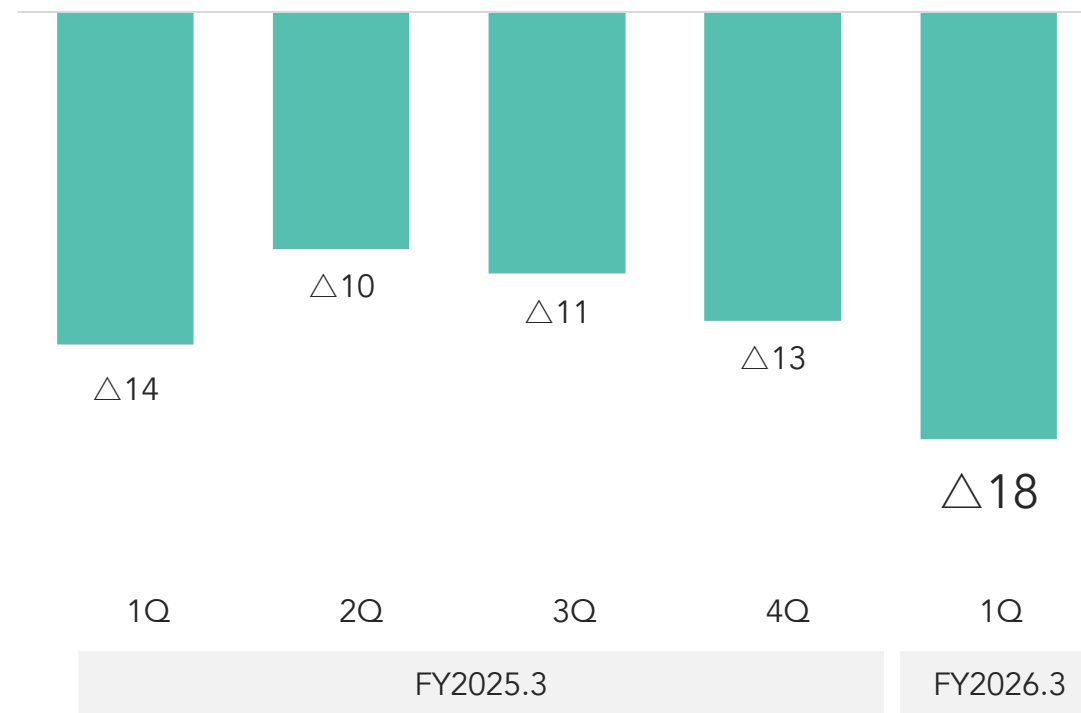
■ 売上高（単位：百万円）

YoY +80.0%



セグメント営業利益・営業利益率 推移

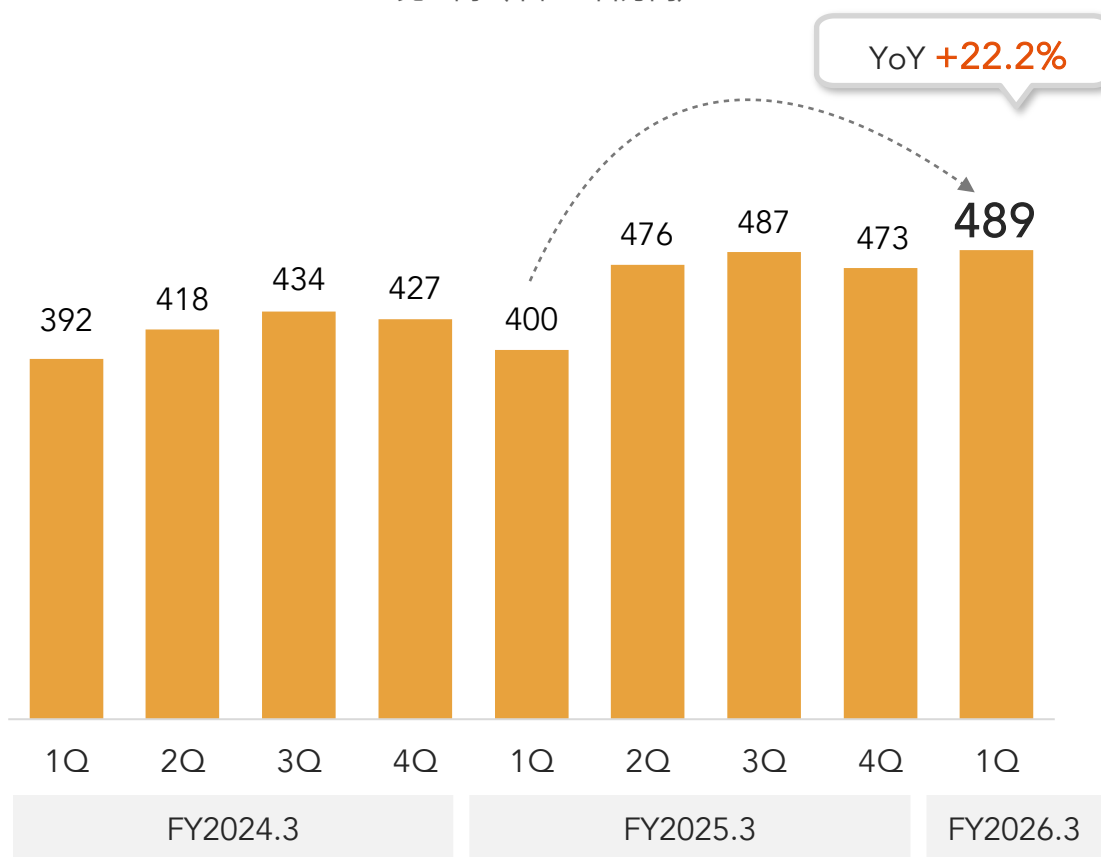
■ 営業利益（単位：百万円）



BP・レンタカー／中古車販売・車検整備ともに順調に推移し、計画通りの着地

セグメント売上高 推移

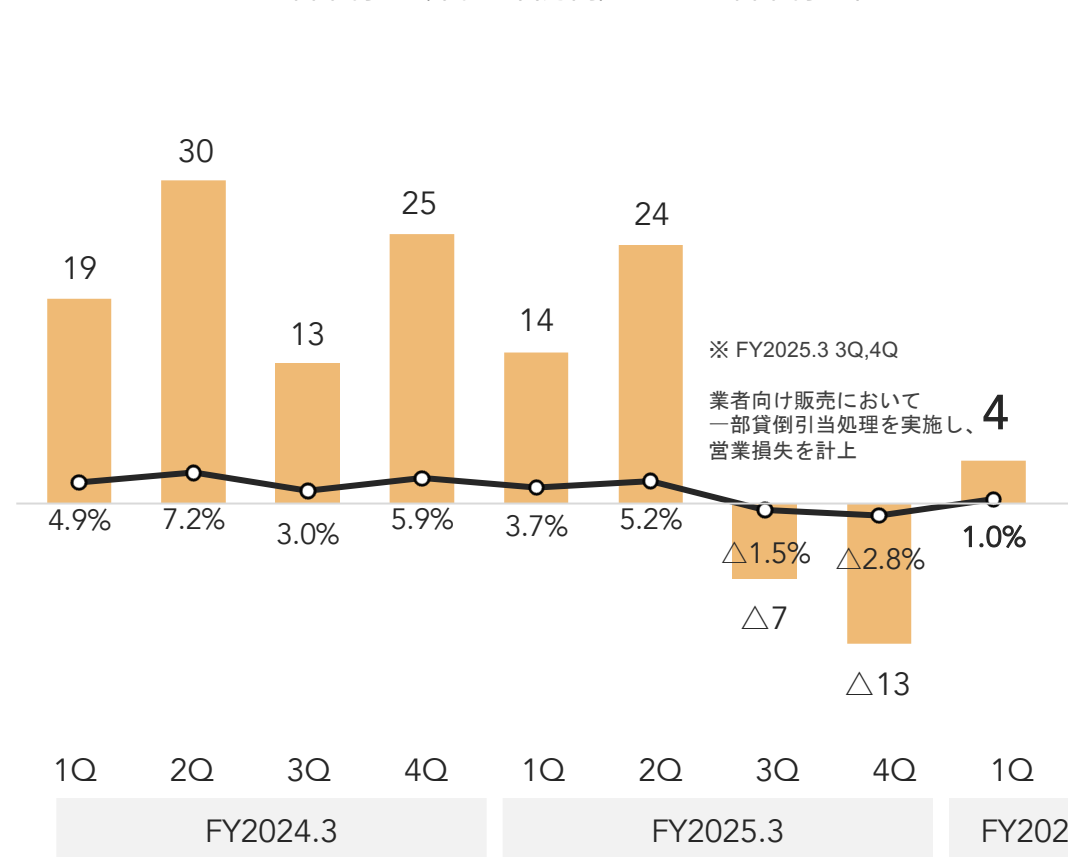
■売上高（単位：百万円）



セグメント営業利益・営業利益率 推移

■営業利益（単位：百万円）

●営業利益率



03 ビジネスアップデート

クラウド型IVR&SMS送信サービス「TeleForce」

2025/04/15

大規模アップデートで電話DXを加速

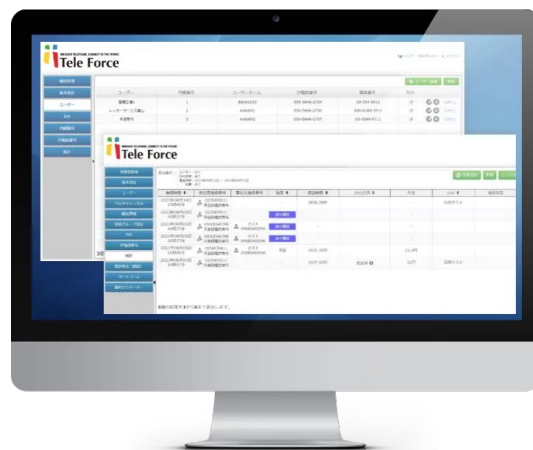
- 電話業務の自動化と効率化を飛躍的に進化させる大規模アップデートを実施
- 属人的な電話対応から“**可視化・共有・自動化された電話対応**”へと業務をシフトさせる38項目の新機能・改善を搭載

48言語対応音声ガイダンス

Google Chat / Slack / Teams
リアルタイム連携

発着信履歴のステータス管理

業種別音声カスタマイズ



EC特化型CRM・MAツール「アクションリンク」

2025/06/30

ITreview「Customer Voice Leaders 2025」にてレビュー収集部門を受賞！

- ITreview上で数多くの高評価レビューを獲得し、今回新たに新設された「レビュー収集部門」において、顧客の声に真摯に向き合う姿勢が評価され、受賞



カーソリューション

2025/04/30

オートレックス株式会社の株式の取得（子会社化）

掲載台数12,000台以上！国内最大のトラック専門
中古車情報サイト「トラックバンク」を運営

当社が20年以上蓄積してきた中古車販売業務支援ノウハウや
メディア運営＆マーケティングノウハウを「トラックバン
ク」にも注入して掲載顧客と掲載台数の拡大を目指します

当社

中古車販売業務支援ノウハウ

メディア運営＆マーケティングノウハウ

トラックバンク

国内最大の掲載台数

圧倒的なマーケット認知



商用車市場にも本格進出して
更なる事業成長機会を取得！



自動車メディア

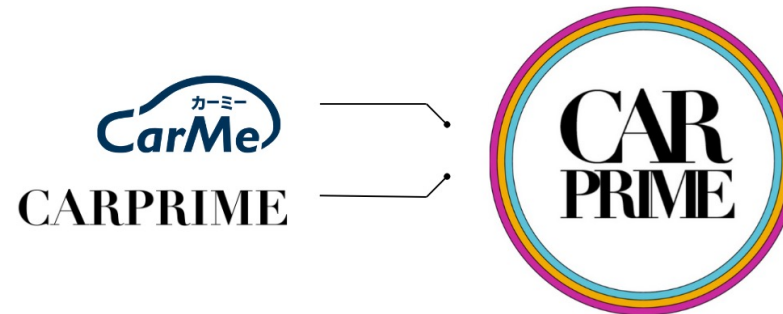
2025/07/01

自動車総合メディア「CARPRIME」が新たに誕生

YouTubeとwebのブランドを統合し、新たなメディアへ進化

「ユーザーの「知りたい」に、もっと深く、もっと楽しく応
える」をミッションとして掲げ、WebサイトとYouTubeチャ
ンネルが連携した総合自動車メディアとして展開

ブランド統合



2025/5/14

プロジェクト・オン

次世代音声AI構築プラットフォーム「project: On」を発表

人手不足や多言語対応など業務負荷の高い領域での音声AI活用ニーズに答える音声AIソリューションを開発

project: Onを構成する2つのサービス

音声AIエージェントと電話回線を簡単かつ迅速に接続するクラウドインフラ基盤

**onBridge**
AIと電話をつなげる

音声AIエージェント構築プラットフォーム

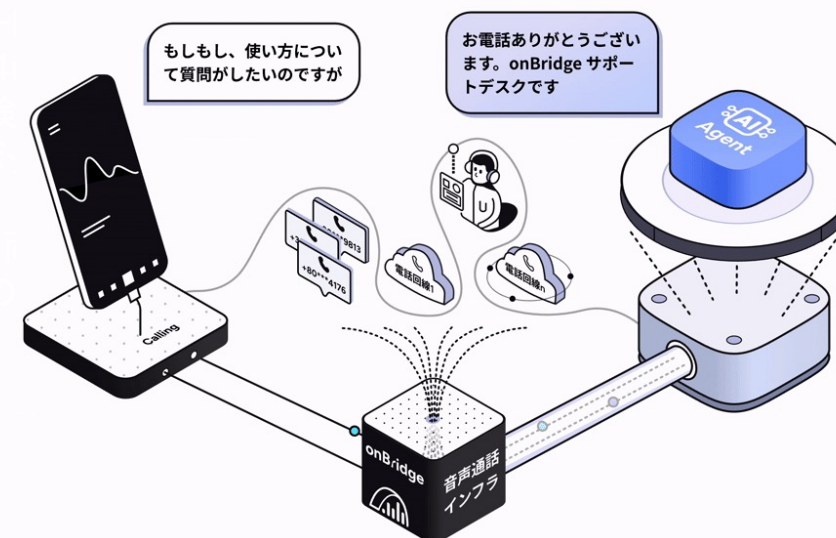
**onVoice**
音声AIエージェントをつくる

様々な業界における音声AIエージェント導入を飛躍的に加速し、急成長が予測される日本の音声AI市場における主導的ポジションの確立を目指す

「onBridge」ウェイティングリスト公開

2025/7/31

AIと電話をシームレスに連携させる「onBridge」正式リリースに向けたウェイティングリスト登録受付を開始し、導入を検討している企業向けに事前登録を受付中





本資料は、当社グループの業界動向および事業内容について、現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業等に関する情報は、公開情報等から引用または作成したものであり、そのデータ・指標等の正確性・適切性等について、当社は独自の検証は行っておらず、何らの責任を負いません。

本資料発表以降、新しい情報や将来の出来事等があった場合において、当社グループは本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。